

2024 年 1 月 24 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

保健師による災害平時の多職種連携・協働に関する事例検討
～市原市災害時保健活動マニュアルの策定と
研修会の企画・実施を通して～

Multidisciplinary Collaboration and Cooperation among Public
Health Nurses in Preparation for Disasters: Formulation of
Disaster Health Activities Manual through Planning and
Implementation of Training Sessions

22MN012

川西 里奈

要旨

《目的》市原市災害時保健活動マニュアルを用いた研修会の企画・実施において行われた自治体の多職種連携・協働に関する方法について明らかにする。

《方法》本研究は、フォーカスグループインタビューによる質的記述的研究である。保健師ジャーナル 72 巻 9 号に掲載されていた『「市原市災害時保健活動マニュアル」にもとづく研修会の取り組み』の研修プログラムの企画・実施に携わった保健師 2 名とその経緯を知る保健師 1 名に半構造化インタビューを実施し、質的記述的分析を行った。なお、本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受け、実施した。(承認番号:23-A052)

《結果》市原市災害時保健活動マニュアルを用いた研修会の企画・実施において行われた自治体の多職種連携・協働に関する方法として、【部署内における災害に関する体制を作る】、【日頃の保健活動を通して他職種・地域住民との連携・協働を行う】、【マニュアル策定時から多職種連携を行う】、【多職種を巻き込んだ災害時を想定した研修を企画実施する】という 4 のカテゴリと 15 のサブカテゴリが抽出され、マニュアル策定以前の体制作りや日常活動における連携・協働、マニュアル策定時および研修の企画・実施における連携・協働などの段階が示された。

《結論》日頃の保健活動やマニュアルの策定、研修会の企画・実施といった全ての保健師活動において、災害における多職種との連携・協働を意識した活動が行われていたことが明らかとなった。発災時の保健活動には、様々な機関や部署が関わっているため、平時から顔見知りの関係を積極的に築き上げていく必要があり、災害時の保健活動等に関するマニュアルを作成する際には、保健師をはじめとした多職種での関与の必要性が示唆された。また、災害平時における保健師の特徴としては、地域に身近な存在であるからこそ日常の業務の中から発災時を見据えた多職種や地域住民との連携・協働が可能であることが明らかとなり、また、保健師の役割として求められていることが示唆された。

実践への示唆として、各自治体において独自の災害時保健活動マニュアルを策定することが望ましく、災害発生時には、様々な機関や部署との連携・協働が必要不可欠であるため、マニュアル策定の段階から多職種連携・協働の有用性が示唆された。また、今回のインタビューで行われていた多職種を巻き込んだ研修の実施が、平時から他職種と顔の見える関係づくりに繋がり、発災時に連携しやすくなるのではないかと考える。